

インタビュー 融合の絵

日本画の巨匠平松礼二は、彼がクロード・モネの作品の一部に新しい解釈をすることになった経緯について語った。

日本において「ジャポニスムの再来」とは19世紀末にフランスに留学した日本人アーティストたちを指して使われる。ジャポニスムはその頃フランスでは頂点に達していたが、彼らは意識的にまたは無意識に、絵のテーマや色使い更には色合いに至るまで日本の版画からインスピレーションを受けていた西洋人の師に影響を受けた。しかしこの言葉はまた、現代アーティストにも使われる。日本画（日本の伝統的絵画の技法）を描く平松礼二がその例だ。その彼の展覧会がジヴェルニー印象派美術館で現在開催中だ。

あなたが2013年にジヴェルニー印象派美術館で開いた展覧会、平松礼二、睡蓮の池、クロード・モネに敬意を表して、は大きな成功を収めました。入場者たちはあなたの作品に接して、日本画の美に目覚めました。

しかし、なぜクロード・モネを表敬するのか、またどのようにして、あなたはこの画家に辿り着いたのでしょうか？

平松礼二： 私はずっと以前からパリを訪れたいと思っていましたが、その夢が叶って、1994年ジャンゼリゼのあるギャラリーの招待で個展を開いたのです。初日の翌日、チュイルリー公園に散歩に行き、オランジェリー美術館に入りました。もちろんそれまでもモネの名前は知っていましたが、その壮大な作品を實際知っていたわけではありませんでした。ところがそこに印象派の偉大な装飾作品であるシリーズ、睡蓮、を見出して、私はすっかり魅了されてしまい、微動だに出来ませんでした。私の妻も同じでした。この偉大な巨匠の作品には遠近法は存在しません。人物もいないし、動物もない。しかし、水面を漂う睡蓮があり、四季の表現があり、時間の経過があり、水面に反映する雲がある。それらの事象を前に、私は様々な事を自問自答しました。日本画の画家としての私の目には、この80メートルを超す巨大な円形状の作品の中に大きな絵巻物（彩色装飾された日本の巻物）が見え

▶お役立ち情報

ジヴェルニーの平松礼二 11月4日まで開催

住所 99, rue Claude Monet 27620 Giverny.

電話 02 32 51 94 65 - www.mdig.fr

毎日10時から18時までオープン（閉館期間7月16日～26日）



平松礼二 (1941年生まれ)
水と樹と睡蓮の交響曲 2011年。
日本画 屏風四曲一双 180 x 680 cm.
ジヴェルニー、印象派美術館, MDIC 2013.1.4.



平松礼二 (1941年生まれ)
色彩のカルテット—睡蓮 2011年
日本画 屏風六曲一隻 180 x 420 cm.
ジヴェルニー、印象派美術館, MDIC 2013.1.5.

ていました。この作品を折っていけばそれは屏風になる、とも考えました。私の頭の中は疑問でいっぱいとなり、いったいモネが描きたかったのは何だったのだろう、と思ったのです。

あなたがモネに敬意を表して作品を創りたいと強く欲した理由は何ですか？

平松：モネの考えたことをより良く理解するために、彼の足跡を辿ろうと、私はジヴェルニー行きを決めました。そして彼の睡蓮の池を見てみよう、と。そこで気が付いたのですが、池は水筒の形をしており、日本風の橋がそれを横切っていました。モネは水鏡を生み出すために意図的にこの形を選んだに違いない、なぜならそれは浮世絵に描かれた遊女たちが使っていた手鏡を連想させるからだ、と納得しました。水面に映る光の反射は、素晴らしい美をもたらしていました。鉢植えにされ池の底に置かれた睡蓮は、水面でその葉に囲まれて花を咲かせていました。その瞬間、私は自分の疑問に答えを見出したのです。モネは、この池を伝統的日本の「美意識」と日本的「装飾的遊戯的アート」のエスプリの中で創り上げたのだ、と。そしてモネはそれら全てを彼の主作品であるあの巨大な睡蓮の装飾的画面に込めようとしたのです。

私はモネの気持ちになりきろうと思いました。そして今日一般の日本人、特にアーティストたちが遠ざかろうとしている傾向のある日本の伝統的なモチーフを表現するのに日本画の画材や顔料を使ってやりたいと考えました。これがモネの作品を再び生き返らせるために私が取った方法です。モネは、多くの研究課題を次の世代に残しました。